

照明用有機ELパネルを手がけるLumiotec (株)ルミオテック、山形県米沢市八幡原5-1-14 9-18、☎0238-291-0725)は、先ごろ東京ビッグサイトで開催された「第46回インターネブコンジャパン」に最新のパネルを一堂に展示した。産業用や店舗施設用などに需要が伸びており、2017年度末には高輝度の新型パネルやフレキシブルパネルの商品化も予定している。

同社は、三菱重工業やロームら5社が08年5月に設立した照明用有機ELの専業会社で、米沢工場に145mm角パネル換算で年間6万枚の生産能力を持つ。現在は、第3世代の照明パネルとして電球色(3000K)の「P11シリーズ」および白色(4000K)の「P09シリーズ」、昼白色(5000K)の第2世代

ネブコンに有機EL照明を出展



獲得してきたが、最近は産業用の照明として需要が伸びている。「産業用機械の照明には一般的にLEDが採用されているが、眩しすぎるという意見もあり、用途によっては有機ELのほうが見やすいと評価され、採用事例が増えてきた」と(説明員)という。

8000 cd の次世代品を17年度上市

これまで美術館の展示用や文化財の修復用、(株)きんでん(大阪市北区)のラウンジ照明などに採用実績を加えた。

このほか、黒田精工(株)(川崎市)の精密成型平面研削盤の透き見ライトにも採用されたほか、注射器のアンブル検査用、半導体の解析装置、作業用の手元ライトなどにも使われており、台湾などの海外を含めて引き合い件数が増えているという。

堅調な需要を背景に、同社ではさらなる高性能化を推進する。現在、P06シリーズの第3世代品にあたる「P13シリーズ」の開発を進めており、

他の第3世代品と同じく、輝度を5000cd/m²に向上させる予定だ。

並行して、P11およびP9シリーズの第4世代品の開発も進めている。第4世代品は輝度を8000cd/m²まで高める考えで、これを実現するためパネルのITO膜上に独自の光取り出し構造を初めて導入した。「装置内の湾曲部な

どに使えるという話をいただいたしており、航空機の内装ライトといった新市場も開拓できるとみている(同)。17年度末までに商品化するべく、開発を加速している。

同社は今後モサンブル展開や展示会への出展などを通じてPR活動を活性化し、技術情報も積極的に提供していく方針。コスメティック関連や中小企業にも有機EL照明の採用を働きかけていく考えだ。

ルミオテック 有機EL照明パネルの製品シリーズ

	現行品	開発中
電球色 (~3000K)	型番 P11シリーズ	→ 未定
	効率(ルーメン/W) 45	→ 光取り出し構造を採用
	寿命(3000cd/m ² 時) 4万	→ 8000
	輝度(cd/m ²) 5000 製品の世代 G3	→ G4
白色 (4000K)	型番 P09シリーズ	→ 未定
	効率(ルーメン/W) 33	→ 光取り出し構造を採用
	寿命(3000cd/m ² 時) 3万	→ 8000
	輝度(cd/m ²) 5300 製品の世代 G3	→ G4
昼白色 (~5000K)	型番 P06シリーズ	→ P13シリーズ
	効率(ルーメン/W) 28	→ ~30
	寿命(3000cd/m ² 時) 1.2万	→ 3万
	輝度(cd/m ²) 3000	→ 5000
	演色性(Ra) 93 製品の世代 G2	→ 90 → G3

(ルミオテックの資料をもとに電子デバイス産業新聞作成)